

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	教職員の評価が100%肯定的意見。目標やめあてを教職員が高く持っているため、児童も同様に80%以上の肯定的評価。保護者への周知が課題である。
	児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	学期末の教師の声掛けや個人目標の振り返りを充実させる。保護者へは学校だよりや懇談会・授業参観でも周知しているが、より積極的な周知が必要なため、更なる周知徹底を図っていく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	学校HPへの掲載、学校だよりの地域への紙ベースでの回覧等も行っていて効果的であるとは考えるが、保護者及び地域の理解を更に得る工夫が必要である。授業参観の機会や保護者・地域の方が学校に来校する運動会や学校公開等の機会に本校の教育活動を参観いただく中で伝える等、具体的な手立てを講じていきたい。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 教職員も児童も保護者も地域も、概ね「そう思う」「だいたいそう思う」に回答しており、約9割が良好な学級経営を行っていると読み取れる。一方で児童と保護者の回答では否定的な回答がそれぞれ11%・7%を占めており、この数値を減らしていく必要がある。
	児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策 開かれた学級経営をさらに推進していく必要がある。保護者との連携をとるために、連絡帳や電話での学校生活の連絡、学年だよりやクラスホームページの公開など各学年の実態に応じて進めていく必要がある。また、学校応援団の活用などを通して保護者に学校に来校する機会を増やしてもらうなどし、開かれた学校づくりを目指す。
	保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 地域の回答が「わからない・無答」で答えている割合が高い要因は、地域と学校の交流する機会の減少が原因だと考える。一方で、保護者からは「わからない・無答」を選択した回答率は低いと言える。これは学校がクラスルームやHPIにおいて積極的に発信している証であり、評価することができる。継続していくが大切であるため、新年度の職員の入れ替わりがある新体制に変わっても徹底していく必要がある。
	地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	全体的に見て、8割以上が「主体的に学んでいる、学び合いを行っている」と肯定的に捉えていることが分かる。これは、日頃の授業で学び合いを取り入れ、ペアやグループで考えを共有したり、広げたりする場面を作っている成果だと考えられる。
	児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	肯定的な意見が多い一方で、否定的な意見の児童への手立てが必要である。学習に対して苦手意識が強い児童には、ICT機器を活用することで支援したり、意図的な座席配置で学び合いをサポートしたりしていく必要がある。また、安心して話を聞いたり、考えを言えたりする学級経営も継続していく。保護者や地域の方々に、日頃の学習の様子を見ていただくことも必要である。
	保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	藤小で取り組んでいる座席位置の工夫は話し合い・学び合いの活動には非常に有効だと考える。この取り組みの成果が多くの肯定的な意見に繋がっていると考える。一律にコの字型の座席を統一するのではなく、学習内容に応じて学習隊形を変えたり1年生においては、発達段階を考慮して年度途中に採用したりする等、子供の実態に応じた学校の配慮は素晴らしい。
	地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察													
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table border="1"><thead><tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>41%</td></tr><tr><td>②</td><td>44%</td></tr><tr><td>③</td><td>15%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr></tbody></table>	評価結果	割合	①	41%	②	44%	③	15%	④	0%	⑤	0%	評価結果について の分析・課題	教職員や児童の評価が高い。多くの教職員がICT機器を活用した授業を行っていることがわかる。教職員の15%が否定的意見であることが課題。
	評価結果	割合															
	①	41%															
	②	44%															
③	15%																
④	0%																
⑤	0%																
児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	<table border="1"><thead><tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>52%</td></tr><tr><td>②</td><td>35%</td></tr><tr><td>③</td><td>7%</td></tr><tr><td>④</td><td>2%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>4%</td></tr></tbody></table>	評価結果	割合	①	52%	②	35%	③	7%	④	2%	⑤	4%	課題解決 への方策	ICTの活用はできるが、わかりやすく工夫した授業を行えるか不安のある教員もいるため、ICT機器の研修(得意な人が中心となり苦手な人への情報共有)を行う。	
評価結果	割合																
①	52%																
②	35%																
③	7%																
④	2%																
⑤	4%																
保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table border="1"><thead><tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>44%</td></tr><tr><td>②</td><td>45%</td></tr><tr><td>③</td><td>5%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>5%</td></tr></tbody></table>	評価結果	割合	①	44%	②	45%	③	5%	④	0%	⑤	5%	学校関係者 評価委員会による 評価	藤小ではICT機器を多く活用し、授業実践を行っている。教師が一方的に提示する使い方のみならず、子供同士が繋がり、学び合いを行う場面において活用がされていることが素晴らしい。これは考えを深めることに繋がっていると考え。ミライシードの活用により、子供たちの表現する力だけでなく、基礎・基本の知識の定着も図れている。更に基礎・基本を定着するためにも意図的にタブレットと紙での学習を効果的に使い分けていく必要がある。	
評価結果	割合																
①	44%																
②	45%																
③	5%																
④	0%																
⑤	5%																
地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	<table border="1"><thead><tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>①</td><td>73%</td></tr><tr><td>②</td><td>9%</td></tr><tr><td>③</td><td>5%</td></tr><tr><td>④</td><td>0%</td></tr><tr><td>⑤</td><td>14%</td></tr></tbody></table>	評価結果	割合	①	73%	②	9%	③	5%	④	0%	⑤	14%			
評価結果	割合																
①	73%																
②	9%																
③	5%																
④	0%																
⑤	14%																

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 肯定的な回答は教職員が97%、児童が82%、保護者が89%、地域が91%となっていた。本校の体力向上に向けての取り組みが概ね高評価であり、体力向上の実践が浸透していることが分かる。一方で、児童の15%は否定的な意見であることから、「運動好き」な児童の育成のために、運動の楽しさを味わえる体育科授業の実践に向けて、更に研修等を充実させていく必要がある。
	児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 運動が苦手、低位の児童に向けての体育授業の工夫。休み時間のイベントの定期的な実施。運動好きになるような、行事の改善等、学校全体、職員全体で、体力向上を目指し、運動好きな児童を育成する気持ちを高めていく必要がある。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 概ね肯定的な意見が見られるものの、「そう思う」と答える回答が児童と保護者では大きな乖離が見られる。学校の取り組み、子供の様子が保護者に正確に伝わっていないことも考えられるため、学期に1度体育学習カードを持ち帰らせる等の工夫も必要なのではないか。学級の取り組みが保護者に伝わりきっていない部分もあると考えるため、クラスルームでの発信や学級だよりによる教育活動の様子を伝えていく手段をとることも改善案の一つである。ただし、教職員の負担増にならないようバランスをとることも必要である。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 肯定的意見を見ると、教職員が89%、保護者が67%となっているが、保護者の24%を占める「わからない・無答」を除くと、肯定的意見の割合は88%となり同様であると言える。これは、我が子が関係していないためわからないと答えている保護者がいる可能性も考えられる。また、教員サイドの連絡・相談・対応では、保護者サイドのニーズは満たせていないとも考えられる。教員側に怠慢があるようには見受けられないので、対応が不十分というよりは、求めていることに正対していないのではないかと推測される。
	児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やうちのの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 問題発生時の報告の段階で、こういった方向性で物事の解決に向かって進めていくかというプロセスを明確に定める必要がある。また、定期的に連絡を取り合う中で、現段階ではどのような状況なのか、どの部分が未解決・未解消であるのかということ、保護者と共通理解を取りながら進めていく必要がある。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 概ねの肯定的意見を得られていることは評価できるが、保護者の否定的意見があることも忘れてはならない。実際に対応が後手に回っているケースがないのか、保護者・本人の不安感や困り感が解消されているのかを学校は確実に把握する必要がある。家庭と今後も連携を密にする教育相談体制の更なる定着に期待している。
	地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 教職員側の自己評価は高いが、それが子供たちの生活に効果的に作用しているか、またその取り組みや働きかけが保護者にまで届いているかとなると、数値的には十分ではない。児童への質問に関しては、自発的な動きができていくかという点なので、また毛色が変わってくるが、周囲への分かりやすさという点では、取り組みの工夫が必要であると考えられる。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 児童への働きかけとして、自分の可能性を伸ばしたい、人間関係を広げたい、という内発的動機付けにつながるアプローチが必要である。特活や道徳、キャリア教育などを活用すべきである。保護者への働きかけとして、学級通信や連絡帳、クラスルームなどを活用しての情報発信が必要である。「学校の取り組みが不十分」のではなく「学校の取り組みが不透明」ということであると推測されるため、その点をクリアにしていける必要がある。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 全ての項目において80%以上の肯定的意見を得られていることから、教職員が児童を大切にしていることがうかがえる。教職員の授業における声掛けや突発的に起こる問題への対応を目にしても、一人一人に寄り添って指導していることが分かる。しかし生徒指導体制の基本は組織である。教職員個人の能力が素晴らしくても、うまくいかないケースがあった際には即時に組織で対応せねばならない。まずは早期発見・早期対応のため、小さいSOSのサインを見逃さないよう教職員の意識の向上に更に努めていただきたい。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ①②の評価が教職員は90%以上、児童は70%以上となっている。通級と家庭、担任が連携したり、SCと家庭、担任が情報交換をしたりすることが結果につながっていると考え。否定的意見な意見の児童が合わせて18%いること、「わからない」と答えている地域が23%いることが課題である。
	児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 否定的な意見の児童が合わせて18%いることについては、教職員や保護者、友達等に相談できることが重要であり、常日頃から児童に伝えていくことが大切であると考え。また、校内の特別支援学級の体制がとれていることを地域の方々が知る術としては、学校だより等で広く伝えていくことが有効だと考えられる。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 地域の「わからない・無答」の回答率が高いことは、学校の教育活動の情報発信が不十分である可能性も否定できない。個人情報保護の観点からも全ての実践を伝えられないことは理解しているが、個別の配慮を要する児童に対し、効果的な取り組みや手立て、家庭でできる実践例の紹介等があれば各家庭の子育てにも参考となると考える。保護者の「そう思わない」という意見については「0」にする必要があるため、保護者が学校に期待することや要望・ニーズについて更に把握することが求められる。学校・家庭・地域が「連携」していくことが、教育活動の更なる理解への第一歩となると考える。
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果についての分析・課題 肯定的な回答は教職員が80%弱、保護者が70%、地域が90%となっていた。保護者、地域が協力的で行事等への参加、地域の人材活用が進んでいることがわかる。教職員の2割が否定的意見、保護者の否定的回答、わからないという回答が3割、地域の方でも1割あった。家庭によっては協力したくてもできない現状や地域の人材活用のハードル等、活用機会の増加・周知に課題がある。
	児童			課題解決への方策 教育課程の中に、地域人材が活用できる単元、時間等を蓄積し、次年度になっても同じようなことができるようにする体制を整えることが大切である。学校応援団を活用しやすいように、応援団の活用場面をリストアップし、活用したいときにすぐに見つけられるようにする。活動内容が分かりにくく参加できずにいる方もいるため、HP・学校だより等を効果的に活用し、広く周知していく必要がある。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 学校全体としては地域人材の活用をするという観点では、素晴らしい取り組みを行っていると言える。学年によっては、活用回数にバラつきがあることから年間指導計画の見直し・改善が必要だと考える。学校運営協議会の全5回の開催を計画的に行っていることは非常に良い。協議会を絞って、学校の課題について更に熟考する機会があってもよいのではないかと考える。地域の肯定的意見の高さは、ともに行った除草活動・学習ボランティア等の活動を学校HP等を通して周知していることが、理解に繋がったと考える。否定的な意見については少数ではあるが、状況を把握し、対応していくことで今後の改善に繋げて欲しい。
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

藤

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	29% 57% 11% 4% 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 肯定的意見、①そう思う29%、②だいたいそう思う57%、合計で86%と、約90%の教職員が業務改善を進めることができている。しかし、約10%の教職員が否定的回答であった。教育課程が40分授業となり、放課後ゆとりができたことで、教材研究等の時間をとることができていることが肯定的な意見へとつながっていると考えられる。
	児童			課題解決への方策 校務分掌の細分化を進め、仕事を分担し、1人に負担がかからないような組織づくりが必要である。また、引継ぎや共有を確実に行うことで、時間を捻出できるようにしたい。
	保護者			学校関係者評価委員会による評価 教職員の負担感の軽減は「働き方改革」の大切な要素ではあるが、一番の目的は学校の教育力の向上である。行事や会議の精選を行うことで、教材・子供と向き合う時間を確保し、教師力を向上させていく必要がある。一人の教師の育成は学校の教育力の向上に繋がる。学校は負担感を持っている教職員へのサポート・現状把握を徹底し、改善していくことで更なる学校全体の教育力の向上に繋げて欲しい。
	地域			